



(二) (第三種便箋) 昭和二十三年七月十二日

# 中平窪青年の 漱汗奉仕 部落の感謝の的

部落青年園員が、同金太郎の駄君と、三百余名が總員で各自資材、器具、他必要品をもちよつて、約二キロ余にわたる驛道補修に或ひは村落の悪路補修に灼熱をものとして盛りあがる若き青年の意氣を聖汗奉祝するに打ち込み村民の感激的となつてゐる。日本再健途上に光明示唆をなげかけていくが、同青年園では更々に附近部落にも出掛ける、聖汗奉仕に奮闘する、園長松本郁四郎君もさへかけようとする端の準備をすゝめている。

虫けらと馬鹿にしさい點では同類項であ  
て歯牙にかけないけれども、われわれ身近いところでは先づ蟹とシラミは人間の体を領土と心得てか、勝手氣儘にかみ付いて来る蟹は陽性で火にくべられて獸類にも共通にたかるパチンと彈くあたりはから、これに見舞われ敵ながらも痛快といいうのは人間だけに繁殖わけにもゆかぬが、シラミに取り付かラミはその住みどころよりも厄介な代物で、うると見立てたのか懶々か

山形屋	湯本旅館組合	食糧營團湯本出張所	衣料品不足ノ折柄	きである。この外 對して更にあれ 内憂の寒心すべき を持つてゐる。そ 人間の誇りとする 文化の產物である の機械化による自 毒であろう。機械 達し利用しながら 機械のため驅使せ る傾向も生じたの やがて機械の奴隸 らぬよう警戒しな ばならぬ。人類は ノ生活の科學化 むべきであるが決 機械に征服せられ ならぬ。機械の暴 機械によつて制す 代が来るであらう はあくまで機械の なければならぬ
松柏館	佐野屋 電十二	御相談ニ應ジマス	みなしノ大切ナ衣類ノ賣賣 ナラ當店へ御出下サイ	
一五	つた本	ゆ本町表町(山形屋旅館前)	買入、交換、委託ノ	
大龍館	備中屋 電四	湯本日用品交換所 委託販賣所		
二六	新萬	越後屋		

九 八 七 六	三 村 青 素 商 湯本町横 西 洋 洗 灌 美 術 京 染	日 用 壺 湯本町裏 御 所 脇 木 店	御 所 脇 木 店 御 所 脇 虎 本 湯本町三番 電 二三	綠 茶 一 杯 元 氣 百 倍 同 日 量 茶 五
------------------	---	----------------------------	---	------------------------------

生命を續くだけで

と公定の生	命を續く
活比較表	だいこんじょう
つまりこれ	一五五〇〇〇円
だから物價	きうり
は公定で生	一〇四〇五〇円
は公定で生	活は配給で
の理想を實	まぐろ三三一三、〇四〇〇
現しなければならぬと	えんどう一〇五〇〇、一七
いうわけで縣の民生部	ねぎ一五六、〇〇
が七月五日現在で調べ	じやがいも一四〇〇
たもの「起きている人	しょウゆ八五、〇〇
間」が最低必要カロリ	えんどう一〇一〇、〇〇
一千二百五十七をとる	えんどう一〇一〇、〇〇
には公定(主食二	△きうり漬
倍値上げ以前の)だと	△きうり一五五、〇〇
約四割であるのにヤミ	△きうり一五五、〇〇
てしまなえば八割強の	△きうり一五五、〇〇
三十三圓三十五錢もか	△きうり一五五、〇〇
ることになる。その	△きうり一五五、〇〇
内譯は(カツコ内はヤ	△きうり一五五、〇〇
ミ閣)	△きうり一五五、〇〇
④朝食	△きうり一五五、〇〇
▲主食	△きうり一五五、〇〇
米 一〇〇	△きうり一五五、〇〇
大豆 一二五	△きうり一五五、〇〇
みそ汁	△きうり一五五、〇〇
みそ 大八、〇〇、五	△きうり一五五、〇〇
△きうり漬	△きうり一五五、〇〇
△きうりおろし	△だいこんせ〇、一〇〇、〇〇
△計	△だいこんせ〇、一〇〇、〇〇
配給三圓九十九錢八厘	△だいこんせ〇、一〇〇、〇〇

青年友  
十三日第一小説  
好間青年會並に青年親り保護者  
睦會と古河 隅田川 する役員  
小田三发鐵勞組青年部本謙四郎  
共同主催の好間青年辯一副會長  
論大會は十三日午前九橋良男  
時から全村第一小學校郎氏ほか  
講堂で開催する出場辯五名であ  
士は約十名で一九十  
分宛の豫定である  
湯本中學  
評議員會  
ゆ本町新制中學校第一川村から  
回評議會は十二日午にお目見  
後一時から同校裁縫室は一貫勿  
で開催されることにな前年に

學校で	餘の家
會規約を協議	たが六月
は名興會長鎗	縣出身者
、會長若松修	つぎの
片寄金作、高	る。六月
諱謙鳳大隅五	おける。
三十四名幹事	太千島
三人	沖縄
十四人	白
四十一人	十七人
二十四人	冲縄
と貢 一五〇圓	白
走りが郡下小	千六百
十一日平市内	軍(ラ)
得した 値段	ギニア
二百五十圓台	十一軍の
らべ十日くら	十三人

者	の	未	歸	還	者	は	よ	う	に	な	つ	て	い	る	に	歸	還	し	た	も
の	か	が	か	が	か	れ	か	が	か	が	か	れ	か	れ	か	が	か	れ	か	れ
他	九	十	人	三	二	一	五	百	九	百	五	十	四	千	萬	三	十八	世	帶	推
其	部	太	平	洋	二	四	十	一	人	八	方	南	方	軍	關	係	四	千	八	百
そ	の	他	九	十	人	六	十三	人	二	一	五	五	五	人	台	灣	一	九	三	三

るものと 梅泥に化く  
りが梅とりに化けを  
いまで 話ゆ本町渡邊勝太郎  
のは二萬二三は去る六日いわ  
六萬四 内藤原川にうなぎ  
人となつに行つたが午前一時  
何人残つ頃梅泥棒に早がはり  
キリした貰九百五十匁を背負  
ていなひて來た處を捕まつた  
学校園長監督のとに御紹介復讐  
御理解ある御支援によりまして計  
延し終了致しました  
當局に於て管轄として纏上げまして  
修復費材料手間共 壱萬円  
一千八百円  
三千四百円  
三千八百円  
御子各二十人分  
賃費  
第三校々長 新家芳善  
同窓會長 鹽澤友吉

湯本履物商組	大若箱青酒	土木建築請負、製 木材販賣一般家具	金五郎退 現在	地半持 二年半 現地
常磐ヤ	東京營業所	本店 福島縣有	代表	吉 天 ます

組合  
松嶺崎嶇る平  
柳や履物  
履物  
物物  
物物  
店店店店店店  
工設計監督  
製作請負  
建工業株式會  
（創立事務  
今泉義滿  
新妻良平  
市新川町一  
本湯田町安藤電器  
豊島區池袋  
九ノ九  
本  
電  
器  
池  
袋  
九  
ノ  
九

安川貿易店	遠藤青果	湯本洋服部	熊上洋服店	泉屋洋服店	東屋洋服店	信濃洋服店	大竹洋服店	吉田洋服店	佐川洋服店	織田洋服店	阿部洋服店
湯本町横字	湯本町横字	湯本町横字	熊上町横字	泉屋町横字	東屋町横字	信濃町横字	大竹町横字	吉田町横字	佐川町横字	織田町横字	阿部町横字

た大衆の食生活

勘定だ  
これでは標準  
になり二千六百圓案では  
良費にも足りないこと  
他の生活部門にはいへ  
らも回らない公定の  
上げには賛成するが  
のかわり食生活だけ  
しも配給でさせてくれ  
といふ大衆の要望はこ  
れをみてもあたりまえ  
大會は午前

東氏美學　市内第三小  
三慰安會を開催無料演藝會  
東一氏は引揚者る

と十三年終り五千人の縣人かたに残してゐるもので、學校で開催すれば満州に開拓として縣から送出した一萬千人の中現存までに還したもののが三千人で、死亡とハツキリ認めたもの千五百人地で應召しソ連に連れられたもの千人で、されたものの六千五百人は何處に行つたか全然わからぬといふといつた事などか考へてもその數字うろん此のなずけるものである

# 電氣。ラヂオ。本湯

電 話 新 設	石材 加工所	馬 目 石 材 店	店主 馬目隆 湯本町驛	學生帽 登山帽 アラ牛帽子	野球帽 ハンチング
一 六 六 番	仕立專門店	湯本町上			

三 村 青 翠 軒	西洋洗濯 美術京染	湯本町横 日用舍	御所脇才木店 店主 湯本町三國 電二三	綠茶一杯元氣百倍 岡田屋茶店
三 三 八 九	西 洋 洗 濯	湯 本 町 横	日 用 舍	御 所 脇 才 木 店